

年に1回しか会わなかった方ですが、私にロシア問題の手ほどきをしてくださった（先方は私を殆ど覚えていないかもしれませんが）、多くのヒントを与えてくださったある学者が、先月亡くなりました。木村汎（きむら ひろし/1936-2019）さん。ロシア問題の専門家で、特にプーチン研究では、彼の右に出る者はいないんじゃないですか？彼が書いたプーチンについての3部作がありますが、1冊の厚さ、こんな（5-6 cm）。非常に鋭い。

一番最近では3年前にお会いしました。ある所で講演があって、開口一番、「今日この場所で私が講演する事は、全部ロシアの情報機関が掴んでいるのです。」ええー！
終わってからお食事を一緒にして、「あなたはユダヤ人問題の研究者でしたね」と。
研究者と言えるほどの者ではないんですが、色々お話を聞いたり、尋ねてくださったりしました。彼は毎回同じ話をします。「前もその話聞いたけどなあ。」十八番（おはこ）というか、どうしても仰りたいのでしょう。

イエーリング（1818-1892）というドイツの学者が、『権利のための闘争』という本を書きました。その1節に「1 km²の領土を失って平然としている国民は、やがて100 km²の領土を奪われてしまう。そして最終的には全領土を失ってしまう運命にあるのだ。」
言い換えると「北方四島の4つの島を取られて平気な国民は、やがて大きな4つの島、つまり日本全土を奪われる運命にある。だから、『こんな小さな島』とか言って、憤然と出来ない国民は将来危ないぜ」という事を毎回仰るのです。

日本の周りにはいくつかの国があるけど、全部領土問題を抱えていますよね。
ロシアとの間には北方四島問題。韓国との間には竹島問題。中国との間には尖閣問題。

今の中国共産党トップ習近平は、尖閣の公海エリアにも、常時中国艦船を乗り込ませていく指導者です。この指導者を来年(2020)春に、日本が国賓待遇で招待するんでしょ。安倍さん、どうしたん？
何かあるのか？と勘繰らざるを得ないような感じがしますよね。
そこで今日もまた、聖書預言に基いて、国際情勢を論じたいと思います。

今の国際情勢の大きな潮流は、何と言っても米中の激突。米中冷戦。冷戦とは戦争です。それが、いよいよ本格的な次元に入った。もう貿易戦争レベルではなくなって来た。
というところから、一緒に考えていきたいですね。

来年2020年は大統領選挙の年ですが、当然の事ながら、トランプ大統領は再選を狙っています。再選を果たすためにはどうしたらいいか？「反対者もそれについては賛成」という 이슈を掲げて実行する事です。
「リンカーン大統領は分裂した南北アメリカを統一した大統領。トランプ大統領は元々一つのアメリカを分裂させている大統領」とよく言われているし、とにかくスキャンダルが多い。敵が多い。ひと言多い。というところに親近感を感じるんですが。

民主党だろうが共和党だろうが、全ての国会議員が賛成する 이슈が1つあります。それは、中国が覇権国家になって、世界を中国の支配の下に置こうとする野心をくじく。それに反対するアメリカ人はいませんよ。だから、これを掲げると思います。

そして遂に「香港人権法」にトランプ大統領がサインしました。これは、香港の人権弾圧にちょっとでも

加担している事が分かった個人や企業は経済制裁を受けます。アメリカに持っている資産は全部凍結される。

今、香港で何が起きているのか？日本のニュースで時々見るのは、「学生たちのデモも暴力的な事に発展しているから、もちろん中国は悪いけど、あんなやり方していたら反感を買うだけでいけない事だ。」
「実際香港の中でも、学生があまりにも過激な事をするのを、白い目で見ている人もいないか。」
分かったようなコメンテーターが。

なぜ香港の人たちが、あんなに必死になって抵抗しているかという、中国の一部でない限り知り得ないような、恐るべき情報を知っているからです。

香港返還は今から 22 年前。この 22 年間に、大陸中国から 120 万人が香港に引越しして来て、今香港住民の内 120 万人は中国共産党に忠誠を誓う人たちです。

そして、香港のデモや弾圧がずっと続いて行く中で、香港のお金持ちは脱出し始めていて、台湾やシンガポール・マレーシアなど、華僑の文化圏がある所に逃げて行っている。するとどうなるか？

今の人口比率で民主選挙をするなら、この間の議会みたいに圧倒的多数で民主派が勝つのです。

しかし、香港の人口を構成している中身が、どんどん大陸中国の人たちに入れ替わっているという事。
「50 年間、一国二制度の制度は変えない」と言っていたのに、なぜあんなに強気かという、中国国内から共産党の手先の人たちが香港の中に入っているから。

これは、中国の他のエリアで起きている事が、いよいよ香港でも起こり出したという事です。

今中国内で、3つのエリアがものすごい弾圧を受けています。

同じように、漢民族が植民されて行って、塗り潰されるような事になっている。

3つのエリアとはチベット自治区・内モンゴル自治区・新疆ウイグル人自治区。

この3つは元々中国のものじゃない。だけど、共産中国になってから侵略戦争し、支配下に置いて、漢民族をどんどん送り込んで塗り潰そうとしています。

この人権問題について、アメリカは今まで黙っていましたが、いよいよこれに踏み込んだという事は、今までの次元ではなくて、正面衝突が近づいていると考えていいと思います。

そこで今、特に注目され、厳しい弾圧下にあるウイグル自治区について触れておきます。

ウイグルの人たちは基本的にイスラム教徒です。トルコ系の人たち。日本人もトルコ系ですよ。

ウラル・アルタイ語なので、トルコの言葉の並び方は日本語と語順が同じです。

ウイグルの人たちは今、3つの問題で大変苦しんでいます。

ウイグル人への恐るべき問題の 1) 無理やり臓器をえぐり取られる事

2010 年のノーベル賞で、平和賞候補になったカナダの人権弁護士デービッド・マタスという人がいます。彼はユダヤ人で、かつてナチスの戦犯を追求する仕事に就いていました。

人権派弁護士として、特に難民問題を扱うプロフェッショナルです。

結局 2010 年ノーベル平和賞は、中国人の劉暁波(りゅう きょうは/1955-2017)という作家に決定しました。この人はその時、作家として中国の民主化運動を応援したという事で、牢屋に入れられていたんですよ。そのまま 2017 年に獄死しました。もし彼でなかったら、デービッド・マタスに送られたであろうと言われています。デービッド・マタスは何をしたのか？

中国政府による、生きた人間を使った臓器バンクの実態を明らかにしたのです。
「無実の人たちが生きたまま臓器を取り出されて、臓器移植の材料にされている」という事をガッチリ証拠固めして。日本語でも本になっています。

元々どこから始まったかという、アニー証言というのがあったんです。中国人女性のアニーという人、偽名ですが、こんな内容です。
「自分の元夫が中国の病院で医師をやっていた。その病院の地下の狭い部屋に、5000人か6000人くらいの方が押し込められていて、約20年間、2000件の角膜摘出の手術をし、手術をする度に給料の何十倍もの現金を貰っていた。身体がどこも悪くない人から角膜を取るだけでなく、麻酔をかけて心臓・肺・腎臓・肝臓、主だった臓器を取り出し、空洞化してがらんどうになった遺体は、そのままボイラーに放り込み、遺族には電話1本『火葬しておきました。』そのようにして取り出された臓器は、国内外の臓器移植でないと助からない金持ちに移植された。彼らは人間部品として、移植の材料とされていたのだ。」

特に法輪功（ほうりんこう）という気功集団がターゲットにされていたという事で、NGOがアメリカの下院議員の委員会に「人間が人間を部品扱いしている。アメリカの政治家よ、どうか立ち上がってください」と訴えるけど「証拠がないじゃないか。」
そこで、証拠の裏付けを取るために、この人権派弁護士に依頼が来たんです。
それで彼は、本当かウソかを確認するために調査に乗り出しました。

初めはインタビュー。捕まったけど、辛くも運良く逃げる事が出来た人たち・中国で移植手術を受けて臓器を貰った人たち・当事者で執刀医だったけど、告発する側に回った人たちにインタビューする。
また、中国が公表している統計を分析して矛盾をあぶり出して行く。

電話による抜き打ち取材。これは、彼のスタッフが臓器移植を希望している患者の親戚になりすまして、いくらで手術をしてくれるか・どんな施設があるか・待機時間はどれくらいかを聞く。
中国全土に169の臓器移植病院があって、それら全部に電話をし、10か月にわたる綿密な証拠集めの結果の動かぬ証拠。
中国は国家ぐるみで、政治犯だとレッテルを貼った人たちをただ殺すだけでなく、金儲けのために臓器をえぐり出して使っている事がはっきり分かった。彼の本を読むと非常に説得力があります。

「私が脳死状態になったら臓器提供します」という、健康保険証の裏にもそれが書いてあるはずで、角膜だけいいとか、全部いいとか、嫌ですとか。
臓器移植が成立するためには提供者者の同意が必要で、嫌と言っているのに無理やり取るのは駄目。

臓器移植手術の先進国はアメリカです。3億人ちょっとのアメリカの人口のうち、1億2千万人が「脳死状態になったら臓器提供します」と同意してドナー登録しています。
しかし、そんなに多くの登録者がいるにも拘わらず、例えば腎臓と肝臓の移植には2年-3年待たなければなりません。なぜなら、ドナーはいつ登場するか分からないからです。
事故死や脳死というのは、「〇月〇日に事故死します」とか分からない。

しかも、たとえ臓器があったとしても、非血縁者の臓器適合率は6.5%なんです。
つまり、臓器ならどんな臓器でもいいわけではなく、自分の体に適合するのは6.5%しかないのです。ピッタリの臓器に巡り合うためには、たくさんの臓器の中から選別して行かなければならない。
今回脳死状態になった人の臓器が自分にぴったり合うかどうか、何の保証もない。

適合する臓器の持ち主は、15人に1人しかいないのです。なので2-3年かかる。
数年前にチェニ副大統領（1941-）が心臓移植手術を受けました。2年待ったんです。
副大統領であろうが何であろうが待たされた。かろうじて生き延びていたのですが、間に合いました。

それが、中国では1週間-2週間ですよ。最短4時間。4時間ですよ！4時間の間に、どうやって適合を調べるの？前もって、どのようなDNA配列で・どんな血液型で・どんな遺伝子情報を持っているのかを知られているからこそ、すぐに提供できるんじゃないですか？それ提供できるって誰の意思ですか？

それで、内部告発者の話が出て来ます。今イギリスに亡命しているウイグル人の元ドクター アニワルトフティ（1963-）さん。イギリスで告発し続けている。彼は1995年、中国当局の命令で臓器移植を執刀した本人です。95年、32歳でした。まだまだ若いドクター。

ある時、先輩医師が来て、「ちょっと野蛮な仕事、やってみないか？若い時に経験を積むのはいい事だし、将来にもいい事だから。」仕事の中身の説明はしないで有無を言わず、「命令だから。出張手術のための準備しとけよ。」翌日、看護師長と助手2人連れて病院に行ったら、主任ドクターが「車に乗れよ。」

着いた所は病院じゃなくて山の中の刑務所。「なんで刑務所？」

主任ドクターが「銃声が鳴るまで、ちょっと待たなあかんからな。」何発かバンバンバン！生きた心地がしなかった。「さあ、行こう」と、すぐにその刑場に入ったら、ずらっと遺体が並んでいた。後頭部から撃たれて、前頭部が吹っ飛んでいるというような遺体が殆どです。

その時、刑務官がこう言ったそうです。「あなた方の物はどれですか？」意味が分からない。「あなた方の物」ってどういう事？怖くて聞けない。そしたら、主任ドクターが一番右端を指して「これです。」近寄って見ると、この死体だけは頭が吹き飛んでいない。胸が撃たれている。主任ドクターが「この死体から肝臓と2つの腎臓を取り出して、専用ボックスに入れる。」

抵抗もできず、ロボットのように、機械のように、メスを入れた瞬間、血管から血液がゴボゴボ溢れて来た。その瞬間に思ったそうです。「生きてる。」

死んでいたら心臓というポンプが止まっているから、血がゴボゴボと湧き上がる事はない。メスを入れた時に、体がピクッと動いて血が湧き出て来た時、「まだ、生きてる！」しかし監視の下で、彼はそれをするしかなかった。肝臓と2つの腎臓を取り出して専用ボックスに入れ、病院へ向かおうとするその時、刑務官が「覚えておきなさい。今あった事は何もなかった事だ。」

彼はずっと黙っていたけれど、ウイグル人なのでイスラム教徒です。週に1回モスクに行って礼拝する。アラーの神の前に出た時、「俺は殺人したんじゃないのか?!」責められて責められて、そして、ある事に気が付きました。

彼がこれに手を染める前、ウルムチの鉄道病院で、腫瘍の外科医として勤務していました。ある時、ウイグル人の父親が少年を連れて来たんです。「先生、この子は長期行方不明だったのが、突然帰って来ました。実は私たちの村では子供が突然姿を消し、突然戻って来るんですが、その子供たちの背中には手術の跡があって、体調がおかしい。どうも変だという話があるんです。どうぞ、うちの子を診てください。」

「そんな事あるもんか」と思いながら、他のドクターに聞いたら、彼以外に3件あるんです。その3件を調べたら、2つあるはずの腎臓が1個しかない。取り出されている。

彼は、このまま中国に残っていたらシステムに組み込まれて、ずっと臓器摘出術に関わらせられるという事が分かったので、ウズベキスタンに、それからトルコに逃れます。

内部情報を知っている者としてそれを言うためには、人権のアメリカかイギリスに行くしかない。それでイギリスに亡命して、これを告発しているんです。これが1つ目です。

ウイグル人への恐るべき問題の2) 強制結婚

1979年、中国政府は爆発的に増加する人口を抑制するために、一人っ子政策をスタートさせました。一家に子供は1人だけ。その結果、人口の7割を占めている農村部で、恐ろしい事が始まったんです。日本のような公的老後保障みたいなものがないので…、

不思議な話だと思いませんか？共産主義なのになんで保証ないの？

共産主義は、それをやるから共産主義ちゃうん？

公的老後保障がないので、農村では子供に面倒見てもらう事になっている。

でも、女の子だったら他家にお嫁入りするから当てにできない。どうしても男の子が欲しい。

それで、出産前に検査して女の子だと分かると中絶するんです。それが30年続きました。

その結果、中国国内で男女の比率バランスが大きく崩れて来ます。特に結婚適齢期年齢の男女の比。男が女よりも3千万人も多い。放っておくと暴動になる。

そこで政府は、この問題を解決するためにウイグル人を使いました。

「一家に1人女性がいる場合は、17歳から27歳までの若い女性を出しなさい。」

彼女たちは職業訓練と言われて、中国内地に連れて行かれ、二度と戻って来ません。二度と新疆ウイグル自治区に戻る事は出来ない。中国内地の他の所に連れて行かれ、漢民族の男性と強制結婚です。

YouTubeで何本でも見れます。女性が結婚式当日、号泣している。でも、声をあげる事は出来ない。

感動の涙ではない。ただ、無言の抗議。

そうする事で、3千万人の独身男性の問題を解決できるだけではなく、ウイグル人の血を漢民族で塗り潰して民族的に抹殺する。エスニック・クレンジング。

ウイグル人への恐るべき問題の3) 核問題

1964年10月16日、東京オリンピック。中国はこの時に合わせて、1回目の核実験をやりました。

今までに46回の核実験をやっていて、その内の23回は地上核実験。残りの23回は地下核実験。

中国の核実験場はウイグル自治区のロプノールにあります。ウイグル人がたくさん住んでいる新疆ウイグル自治区で核実験をやるのですが、核実験する時、地域住民にその事を一切言わない。

先程のイギリスのアニワル・トフティ医師がまだトルコにいる時、イギリスのジャーナリストがウイグル人に連れられて来て、「核の問題でウイグル人がものすごく被爆しているという、動かない証拠を掴みたいと思っている。」

ジャーナリストはウイグルにいたので、なぜ癌がこんなに多いのか、調べた事があったのです。

「自分が知っている情報を全部出したらすごい資料だ。でも映像じゃない。悪いが、もう1度ウイグルに戻って、核実験場の近くで今何が起きているか、私の取材に付いて来てくれないか？」

アニワル医師は恐ろしかったけど行きました。

それがBBCの30分番組で流れました。これもYouTubeで見れます。恐ろしい内容ですよ。

羊飼いのある老人。「羊の群れを飼いながらロプノールの平原を歩いていたら、突然神を見た。」

どういう事？「火の柱が立った。あれは、神以外の何ものでもない。恐るべき轟きと、恐るべき閃光と、凄まじい煙が上がった。あれは、神がご自分を現してくださったのだ」と言うけど、ピカッと光った瞬間、それを見た時、その光に向いていた方の顔は崩れて行くんですよ。被爆です。

大体 19 万人以上の人たちが即死したのではないかと。

札幌医科大学の高田純（たかだ じゅん）というドクターがそれを研究しています。

因みに『西遊記』というドラマがあったでしょ。堺正章（さかい まさあき/1946-）。めっちゃや上手い。三蔵法師を我らの夏目雅子が、と言うと失礼ですが。僕は夏目雅子（なつめ まさこ/1957-1985）さんが大好きで。綺麗だった。

彼女はシルクロードが大好きで、ロケとは関係なしに 1 人で早目に行って、ずっと滞在していました。白血病で亡くなりましたね。被曝が関係しているんじゃないかと言う人もいますよ。

他のエリアよりも 30%も癌罹患率が高いと言われています。

なぜそんな事をやったのかというと、「ウイグル人は全滅してもらって結構だ」と思っているから。

それは前々から言われていたけど、アメリカは口をつぐんで言わなかった。

アメリカと中国との関係は、やはりロシアと言うか。

まだソ連の時、ソ連を牽制するために、アメリカはソ連と 1 番長い国境を接している中国を使って、ソ連に嫌がらせをするという「敵の敵は味方」という戦法を取ったんですが、ソ連が 1991 年 12 月 25 日に終わり、中国が台頭して行きます。

中国が、いつかは西側の仲間入りをするのではないかと期待していたら、そうではない。

遂に「2049 年には中国共産党が世界を支配する」と、ハッキリ言い出すようになったのです。

それでアメリカは、人権問題に遂に踏み切ったんです。これは本気ですよ。

貿易問題や経済問題でやり合っている時は、交渉の余地があるんです。

例えば経済。関税 25%を 10%にする・5%にする・撤廃する、これは交渉。

殊、人権に対しては妥協の余地がない。呑むか呑まないか。そういう問題にギアを切った。

去年(2018)、マイク・ペンス副大統領（1959-）が 2 度にわたって、「中国の価値観と我々の価値観は衝突する以外ない」と宣戦布告するような内容の事を言っています。

そのうちの 1 回は「彼らは信仰の自由を守らない。」

臓器移植に利用されている人たちはウイグル人・法輪功・そして、家の教会と言われているクリスチャンたちなんです。中国には政府が公認している教会があって、三自愛（さんじあい）教会と言います。

そうではなく、中国で認可されていない、教会堂という立派な建物はないけれど、内緒で、家で集まっているクリスチャンたちを家の教会と言いますが、その指導者たちが捕らえられている。

中国共産党は信仰について目の敵にします。マルクス（1818-1883）は「宗教は阿片である」と言いました。阿片とは麻薬です。麻薬はどんなに嫌な事があっても、感覚麻痺させて分からなくし、忘れさせてくれる。麻薬の麻は麻痺の麻。「宗教はそういう麻薬みたいなもので、人間の理性をダメにしてしまう」と言ったのです。

なぜ共産主義は宗教は要らないと言うのか？「共産主義国になると経済問題は解決するから、この地上で忘れ去りたいという嫌な事は何も起こらない」という考えにのっっているから。

共産主義国なのに宗教があるという事は、共産主義になっても人間は幸せになれないという事を認める

事になるので、何が何でも容認できない。だから弾圧する。

もしトランプ大統領が2期目に当選したとして、その次誰になるか？ ある方はマイク・ペンス。或いはマルコ・ルピオ（1971-）。こんなに早くから予測しても、外れると思います。でも、ちょっと覚えておいたらいいんじゃないですかね。

マイク・ペンス副大統領が言っている背後には、もちろんトランプ大統領の考えがあるわけですよ。そこに踏み切ったという事は、経済戦争次元の話ではなく、正面对決、つまり本格的な覇権争いの次元に入って行ったという事になるのです。米中衝突を考えると、これはアメリカでも片手間で戦えるような相手じゃない。

6月にアメリカに行った時、ある方の案内で人工衛星の会社に行きました。民間で色んな人工衛星の会社があって、駐在員の方からお話を伺いました。なぜ、これから人工衛星が大事になって来るのか？ 20世紀の戦争は、制空権を取った方が勝ちでした。とにかく空軍で最初に地上を叩いて、制空権をまず握って、そして戦争。

でも21世紀の戦争は2つの空間。空の空軍も大事だけど、それだけでなく、サイバー空間と宇宙空間。サイバー空間と宇宙空間を握られてしまったら、殆どのものがハイテク IT兵器なので使えなくなる。そこで、人工衛星の会社の事を勉強させてもらったのですが、今の中国、すごいハイテクです。昔は「中国製品なんて…」。今そんな事を言っている人は浦島太郎です。メイドインジャパンをはるかに超えているものが、なんぼでもある。

よくガーファと言いますね。IT四天王 GAFAM。これにマイクロソフトが付いて、ガーファム/GAFAMと言う人もいます。G;グーグル / A;アマゾン / F;フェイスブック / A;アップル / M;マイクロソフト。この前読んだ本で、GAFAMは**黙示録**に出て来る4人の騎士やと。なんでやねん。

これに対抗できる会社が、日本に1社でもありますか？ないですよ。あるとしたらBAT(バット)。Hを付けてBATH(バス)と言う人もいます。B;バイデウ(Baidu)中国のグーグル。検索会社 / A;アリババ(Alibaba)中国のアマゾン。ジャングルじゃなくてアマゾン・ドット・コム / T;テンセント(Tencent) / H;ファーウェイ(Huawei)

息子が何年か前にファーウェイのノートパソコンを買ったのよ。「なんで、そんなん買ったん?!」同じ値段やったら、性能が比べ物にならない。コストパフォーマンス、めちゃくちゃ良いんだと。アップル・iPhoneしか使った事がない人は、中国製スマートフォンの便利さを全然知らない。「でも、捨てるや。怖いやんか。」

人工衛星、宇宙の事もそうですが、今、月の裏側に月面着陸させて、月の地面をクルーザーで走り回っている器械があるんです。「玉兔/たまうさぎ」と言って中国です。月の裏側まで行ってるんですよ、今。何してるかという、月を領土化すると。なんでやねん！どこまで?!

IT・ハイテクと言えばシリコンバレーを思い出すかもしれませんが、まるで磁石のように、世界中の有能な人材を吸いつけて、アメリカで1年間に出て来るIT技術者の8倍の人数が中国に出ています。日本の国際特許は年間18万件。アメリカは60万件。中国は130万件。「今までは中国がアメリカや日本の技術をコピーして来たけど、やがて、日本やアメリカが中国の技術を

コピーするのは、そんなに遠くないぞ」と言う人もいます。これを「チャイノベーション」と言います。脅威のチャイノベーション。チャイナのイノベーション。

彼らは神が無い。畏れるべきものが無い。

なので、トライ・アンド・エラー（Trial and Error/試行錯誤）にタブーがない。

人命がかかっていたら、「命が失われるかもしれないのに、そんな無理な実験やるのは、もうちょっと慎重な方がいい。」それが失敗して人命が失われたら、その実験再開するのに何年もかかるでしょ、日本だったら。中国は関係ない。

トライ・アンド・エラーで、今や移植技術で中国モデルという移植の仕方があるそうですが、世界最先端だそうです。そら、そんだけ数こなしてたら…。

米口時代になった時、アメリカとロシアの間に暗黙の了解事項がありました。

「どんなにお互いが熱くなって、戦争一步手前という事になったとしても、衛星の撃墜だけはしない。」

人工衛星を撃墜するという事は、相手の目と耳を潰す事。目と耳を潰されたら、真っ暗闇になるんです。

そうなると、まずピンポイント攻撃が出来ません。見えないので、今敵がどんな攻撃をしようとしているかが分からないので、恐怖が募ります。恐怖が募ると、いきなり核戦争になる可能性がある。

相手の手の内が全く見えないような戦争をやると、いきなり大戦争に発展する可能性が高いので、衛星撃墜だけはしない。これが了解事項。

ところが12年前。中国は、自国の寿命が尽きた衛星をミサイルで撃墜したんですよ。

その時、日本の新聞も大騒ぎしました。なぜかというと、スペースデブリ。

ミサイルによって破壊されてバラバラになった破片が、宇宙空間に浮かんでいるんじゃなくて、ずっとグルグルと、ものすごいスピードで回っている。あまりにも猛スピードで回っているのだから、塗装のペンキの破片ですら、人工衛星に衝突したら壊れるんですって。

ましてや、ネジやらナットやらの金属片が猛烈なスピードでビュンビュン飛び交って、他の人工衛星に激突したら一発ですよ。それで、「宇宙にまでゴミ汚染するのか！」と随分批判されました。

しかし、軍事的な事を考える人は、もっと他の事を考えていました。

「米口の間で通用し成立していた共通認識が、この国にはない。」

人民解放軍の雑誌に、「今中国は、宇宙空間に浮かんでいるアメリカの軍事衛星 25 個を同時に破壊できる」とはっきり書いてあるんですよ。

これは、「何とか共存して行こう。米ソ冷戦時代のように西側はアメリカ、東側はソ連。互いにそのラインを超えないようにしよう。ヤルタ会談で決めた通りにしよう」という事が通用しない。

だから、片手間で出来るような仕事じゃないんです。アメリカはそんなに余力がありません。

中国に対して力を集中しなければならない。そのために、他の国に派遣している米軍を撤退させていきます。そして、今までアメリカが負っていた軍事費負担を、それぞれの同盟国に4倍から5倍当てるようになります。日本も今言われていますよ。「シンゾー、助けてくれよ」とかって。トランプさんから。韓国には、在韓米軍基地の負担分を今の5倍出せと。NATOも一緒です。

ここから、中東に目を転じたいと思います。

トランプ大統領は1期目に立候補した時、「私が大統領になったら戦争をやめる」と言いました。

その時アメリカは2つ戦争していて、両方とも中東です。

①アフガン戦争。2001年10月に始まったアフガン戦争は2019年の今でも続いている。

アメリカ建国史上、最も長い戦争です。18年。太平洋戦争は3年8か月ですよ。

②シリア北部で行われていたイスラム国全滅作戦。イスラム国を叩くために、特殊部隊を派遣していました。

この2つの戦争のどちらかを1期目でやめると言っています。2期目は、もう1つをやめると言うと思います。彼は、これをどうしても成し遂げたい。公約を守ったという事で、次の再選への弾みにしたいという事です。何をやったかという、10月6日だったと思いますが、トランプ大統領が遂に決断して、シリア北部のアメリカ軍を撤退させると言っていたんです。

トルコとシリアの間には240キロくらいの国境があります。シリア北部一帯、シリア全体の1/3くらいの領土を押さえていたのがクルド人。クルド人部隊。なぜクルド人部隊が押さえていたのか？

クルド人は国を持たない世界最大の民族と言われていて、3千万人います。

オランダの人口は1700万人くらい。ベルギーは1千万くらい。ギリシアも1千万くらい。

クルド人は3千万人もいるのに国がない。彼らはトルコ・シリア・イラク・イランに分布しています。

3千万は大きな数字ですが、4つの国に分散しているので、それぞれの国では少数派。

シリアの2割がクルド人。彼らはアメリカと協力して、イスラム国討伐に立ち上がりました。

その時代はオバマ大統領で、「イスラム国と戦うのに地上軍を出すのはリスクが高すぎる。また泥沼状態になってしまう。」アメリカは空爆はするけど、地上のドロドロした戦いにはクルド人を使う。

それで、最新兵器の使い方をレクチャーするため、アメリカの特殊部隊を約千数百人、シリアに派遣して訓練しました。最新兵器もあったけど、何よりも、クルド人は命知らずの戦いをしましたよね。

次から次へとイスラム国が握っていた所を奪還して、遂に1つの都市を除いて、全てクルド人の手に落ちたのです。

なぜクルド人がそんなに一生懸命戦ったのか？シリアでイスラム国が支配している所からそれらを追い出したら、空き地となった所に、自分たちの独立国家、又は独立自治区を造ってもらいたい。

そのためには、アメリカの後押しが絶対に必要。「国無き民が国を持つ絶好のチャンスだ。アメリカと共に血を流す事によって、見返りとして国造りに協力してくれるに違いない」と踏んでいたんです。

ところで、トルコの主に東半分にもクルド人が住んでいます。トルコのクルド人は、トルコ全体の2割くらい。彼らはPKKという団体を持っていて、これはテロ組織。40年間に4万人以上のトルコ人を殺している。日本の外務省のホームページを見ると、日本政府もPKKをテログループに指定しています。

実は、シリアのクルド人グループはPKKの姉妹団体なんです。トルコのエルドアン大統領はPKKが死ぬほど嫌い。PKKと恐らく地下で繋がっているであろう姉妹団体を、あろう事かアメリカが応援している。アメリカとトルコは同じNATOのメンバーですよ。NATOのメンバーの中で、1番大きな軍事力を持っているのはアメリカ。2番目がトルコ。ナンバー1とナンバー2が仲違いしたら、同盟関係は成り立たない。そこでトルコは「我々が死ぬほど嫌がる事を、なんでアメリカはするんや？同盟国がする事か？やめろ！」と言ったのですが、アメリカは米兵を送ってイスラム国と戦うのはやりたくない。だから、クルド人を使ってそれをやる。

そして、イスラム国は事実上、領土を持たないものとなった。遂に、この作戦が成功したとなったんです。成功した後で10月6日、トランプ大統領は「終わったのでアメリカはシリアから出て行く」と宣言したのです。皆さん、これをどう思います？

これに反対したのがマティス元国防長官。彼はクビになりました。
残っていて反対していたのがボルトンです。クビになりました。反対する人は誰もいない。

アメリカがシリア・トルコの国境に出て行ったのを見届けて、待ってましたとばかりに、トルコ軍がバァッと入って行きました。今までは、クルド人部隊と米軍部隊と一緒に入っているから、クルド人部隊を攻撃すると、アメリカを巻き込む可能性があったのです。
しかし、アメリカが出て行っていなくなったら、トルコ部隊がバサッと入って来て、その日のうちにクルド人難民が 25 万人ですよ。

その時にクルド人部隊がどうしたか。「切り札、切るぞ」と言ったんです。
イスラム国を討伐した時、捕虜にした戦闘員とその家族 1 万人を、クルド人部隊のコントロール下に置いていた。切り札は「我々を見殺しにするなら、イスラム国のジハード戦士たちを釈放するぞ。」
そうすると、今まで何のためにこの戦争をやって来たのか。「それが嫌なら、アメリカは出て行くな！」

でもトランプ大統領は、やると言ったらやるんです。だって、トランプだもん。
英語でトランプには「切り札」という意味があるそうですね。彼が切ったら後に戻らない。
しかし大虐殺が始まりそうで、「あんまりじゃないか！」と、アメリカ国内からもトランプ大統領への非難が出たので 5 日間の停戦。トルコに「5 日間、攻撃やめろ。」どうなったか？
戦闘状態は終わっているのに何も決まらず、期限の 5 日目が来た時、アメリカはなすすべもない。

その時、プーチンが動いたんです。240 キロの国境ラインに、アメリカが出て行くのと入れ替わるように、ロシアの地上部隊を投入した。
そしてエルドアンに対して、「これからは、この国境コントロールはロシアとトルコ軍の両方でやろう。150 時間以内に、我々が国境 240 キロ・幅 40 キロのラインからクルド人を追い出すから、手荒なマネはするな。」そうしてロシアは、中東の NATO 軍があるトルコの 1 番重要な所を、何の犠牲を払う事もなく、自分の手中に収める事が出来たんです。

つまり、トランプ大統領はここを売ったんですよ。中国に集中するために。
中東で金食い虫の戦争を延々と続けながら、同時に中国と戦う事は出来ない事です。
非常にドライ。だから、クルド人と同盟関係があったのにパッと捨てられた。

厳密に言うと、全員撤退じゃなくて、撤退した後で、シリアの油田地帯に今進んで行っています。
あまりに批判があったので、シリアの油田地帯をアメリカが押さえようとしているんです。
「アメリカにはシェールガスやシェールオイルがあるから、中東の石油や油田地帯を押さえなくてもいいじゃないか。」これは、国境地帯から出たクルド人たちに、この油田を渡すためだと思います。
でないと、国際信用ゼロですよ、これ。でも、基本的には手を切って出て行った。

これを見て、「可哀想や」と言っている余裕は、我々にはないと思いますよ。
どんなに長い同盟関係があっても、国益に合致しないとポイッと捨てます。

なので、今危ないのは韓国です。在韓米軍基地の撤退は十分あり得る事だと思います。
アメリカのペンタゴンでも議論され始めていますよね。というのは、今の文在寅（ムン・ジェイン）のような政権（彼は完全に北朝鮮と中国に向いていますね）、1 番厄介なのは、強大な敵ではなく、裏切る可能性のある味方なんです。強い敵よりも、味方の中にいる寝返りそうな奴の方がもっと危ない。

この間、文在寅のブレーンが「我々韓国は中国の核の傘の中に入って、中国の力で北朝鮮の核を諦めさせるのはどうか」と発言しましたね。現職ですよ。文在寅のブレーンの。韓国、どうなりますか、これ。「民主主義の国が独裁国家に逆戻りする事はない」と言うのは、自分の生きている時代しか知らないから言えるのであって、歴史を見ると、そんな事はいくらでもある。なので、アメリカが韓国からパッと出て行く事も、十分にあり得ると思います。

さて、少し聖書を見ていただきたいと思います。**エゼキエル書**。いつもこれを見る事が多いのですが、**エゼキエル**は旧約聖書の預言者。エゼキエルは人の名前で、エゼクは「強める」、エルは「神」という意味があります。**エゼキエル**とは「神に強められる/神に強められた人」。彼は人類歴史の最後の時代、**患難時代**という 7 年間の恐るべき時代の前に、大きな事件が起こるという事を預言しました。その大きな事件が、ここで語られている**エゼキエル戦争**とも言われている事です。

エゼキエル 38:1 さらに、私に次のような主のことばがあった。

次のような主のことばがあった。というのは**エゼキエル書**を解く 1 つの鍵です。同じ章の中で、この文言が出て来た時は「次の、別の話題に移った」という事なんです。ここで **37 章**とは全く違う、別のある事件について語り出したという意味。

エゼキエル 38:2 人の子よ。メシェクとトバルの大首長であるマゴグの地のゴグに顔を向け、彼に預言して、言え。神である主はこう仰せられる。

この預言の内容は、「ロシアがトルコと一緒にあって、再建されたイスラエルに攻め込んで来るが、攻め込むや否や、超自然的な神様の裁きによって全滅する。その様子を世界中の人が目の当たりにし、聖書に書かれている事は本当の事だと驚いて、創造主を信じるようになる。」

メシェクはモスクワの語源。**トバル**はトボリスクの語源。何度も説明していますが、ウラル山脈から西がヨーロッパロシア。ロシアの元々は今のウクライナのキエフから始まります。キエフ公国という、バチカン市国みたいに 1 つの町・市がそのまま国のようなところがどんどん大きくなって、遂にはウラジオストクまで行きました。ウラル山脈の東をシベリアと言います。ヨーロッパロシアの中心がモスクワで、シベリアの中心がトボリスク。だから**ゴグ**は**メシェク**と**トバル**を合わせたものなので、ウラル山脈の東西を合わせた世界最大の国ロシアです。

エゼキエル 38:15 あなたは、北の果てのあなたの国から、多くの国々の民を率いて来る。

これはイスラエルに対する言葉で、ユダヤ民族イスラエルの中心のエルサレムから**北の果て**はどこか？エルサレムから北極点を目指して延長すると、ちょうどモスクワの上空を通過します。エルサレムから真北の位置にあるのがモスクワ。モスクワを首都とする国はロシア。なので、ここで**ゴグ**と言われている国は現在のロシア。

ロシアがイスラエルに攻め込んで来ますが、単独ではなく、いくつかの同盟国を率いてやって来ます。**エゼキエル 38:6** **ゴメル**と、**そのすべての軍隊、北の果てのベテ・トガルマ**と、**そのすべての軍隊、それに多くの国々の民があなた(ゴグ)とともにいる。**

ベテ・トガルマはアナトリア半島で、現在のトルコ。トルコがロシアと一緒にイスラエルに入って来る。

これは歴史的に見ると、実現が非常に難しいはずの事です。ロシアとトルコは 500 年間に 14 回も戦争していて、トルコは 12 回負けています。2 回しか勝ってない。負ける度に領土が削られて、トルコにとってのロシアはただ恐ろしい存在。仲間になんかなりたくない。ところが聖書預言では、やがてロシアはトルコと一緒にいる。

先程のシリアのクルド人問題を見事に解決して、トルコから遠ざけてくれたのはロシアです。ロシアはこの件について、トルコの言い分を非常によく聞きました。それは、これからの中東管理を考えた時、ロシアは 2 つの国を駒のように使うからです。1 つはトルコ。もう 1 つはイラン。

エゼキエル 38:5 ペルシヤ(イラン)とクシュとプテも彼らとともにおり、みな盾とかぶとを着けている。

イランはイスラム教シーア派を国教にしている国。トルコはイスラム教スンニ派を国教にしています。シーア派とスンニ派は、めちゃくちゃに仲が悪い。教理は殆ど違わない。だけど、非常に仲が悪い。似ているから余計に仲が悪い。前にも言ったけど、京都王将と大阪王将、シュークリームヒロタと洋菓子ヒロタ、貴乃花と若乃花。近い存在がこじれた時、もっと仲直りしにくくなる。

彼らは反目し合って、大変な対立の歴史があります。だから、トルコがこのまま中東に勢力を広げて行く事はイランは絶対に嫌。そして、イランがシーア派の勢力を増やして行く事はトルコは絶対に嫌。トルコがイランを押さえようと思ったら、ロシアに口きいてもらうしかない。イランがトルコを押さえようと思ったら、ロシアに介入してもらうのが 1 番いい事。つまり、仲の悪い者同士の 2 つの中東の大国を、まるで 2 頭立ての馬車を御す御者のように、ロシアがその位置を取っている。これは、長い歴史の中で非常に考えにくい事だったのですが、今私たちの目の前に展開しているのはこういう事なんです。

聖書は人類歴史の終わりにどんな事が起こるのかを、非常に詳しく語っている書物です。皆さん、未来を読むって難しいですよ。古本屋さんに行った時、1 番安くというか、二束三文で売っている本はどんな本がご存知ですか？1 年前の経済予測本です。「2018 年の経済はこうなる。」2019 年に読む人いない。そうならないから。経済評論家というのは、昨日予測した事が、今日実現しなかったという理由を、明日述べる人。その時は不確定要素があったからと。もちろんそれは、大事な作業です。

ダボス会議、分かりますか？ スイスのダボスで毎年 1 回、世界賢人会議というのがあって、世界中の国家元首・ノーベル賞級の経済学者・未来学者・世界的企業のオーナー、約 2500 人が集まる。この 2500 人の人類の英知を集めて、来たる 1 年間、世界をどう運営したら良いか、世界はどうなるのかを話し合う会議。今年もありました。

そこで、アメリカのデューク大学だったか、ある大学としておきましょう、未来学者がこう言いました。「2011 年にアメリカの小学校に入学した子供たちが、大学を卒業する時に就く職業の 65%は、現在存在していない仕事だ。今存在している仕事は 35%だけになる。65%は無くなる。人工知能が代わりにやってくれるから。」皆さんのお仕事はいかがですか？「そんな先の話、大大丈や」と聞いておられるかもしれませんが。言い間違いの多い私よりも人工知能が喋る方が、もしかしたらいいかも。いい事ないよ、そんなの。やめてくださいよ。

10年前にはなかった仕事がユーチューバー。ある方は私をユーチューバーと言いますが違います。CMを流していないから。だから、皆さんが何回再生してもお金は出てません。あってもいいかなと思う時もあるけど。それと同じように、今存在していない仕事が65%。それがどんな仕事かは分からない。未来は読めないからです。難しい。

だけど、エゼキエル書が書かれたのは2600年前です。

日本最古の書物である古事記・日本書紀は1300年前。その2倍のいにしえに書かれた聖書は、**エゼキエル 38:8** 多くの日が過ぎて、あなたは命令を受け、終わりの年に、一つの国に侵入する。

これは、書かれた時点から勘定すると千年・2千年、多くの日が過ぎた時に、この事件が起こる。それが起こるためには、ロシアがトルコと歩調を合わせるような世界情勢になっていなければならない。

と同時に、彼らが侵入するのは、

エゼキエル 38:8 その国は、剣の災害から立ち直り、その民は多くの国々の民の中から集められ、久しく廃墟であったイスラエルの山々に住んでいる。

その民は国々の民の中から連れ出され、彼らはみな安心して住んでいる。

世界中に散らされたユダヤ人が、**国々の民の中から連れ出され**、もう1度、**イスラエルの山々**と言われている元いた国 **イスラエル共和国**に住むようになる。

イスラエルが存在しない限り**エゼキエル 38章**は実現しません。

しかし、イスラエルは1948年5月14日に出来たのです。当時は冷戦時代の真っ盛りで、アメリカとソ連はものすごく仲が悪いのに、米ソが両方共、イスラエル建国に賛成したんです。不思議な事です。

なぜソ連が賛成したのか？初代の首相ベングリオンは社会主義者だったからです。

だから、ソ連を好きになってくれるんじゃないかという下心で、スターリンは賛成票を投じるように言ったのですが、もちろんそんな事はしません。色んな歴史的な不思議があって、イスラエルが再建されました。ですから、創造主が書かれた聖書の言葉は文字通り実現するのです。

エゼキエル 38:23 わたしがわたしの大いなることを示し、わたしの聖なることを示して、多くの国々の見ている前で、わたしを知らせるとき、彼らは、わたしが主であることを知ろう。

この預言書が書かれた目的は、「これを書かした目には見えない創造主が本当におられて、この方が日本人も含めた私たちの主なる神である」という事を分からせるためです。

新約聖書のイエス・キリストの言葉も読んでおきましょう。

ヨハネ 16:4 しかし、わたしがこれらのことをあなたがたに話したのは、その時が来れば、わたしがそれについて話したことを、あなたがたが思い出すためです。

イエスは弟子たちに未来の事を預言したんですね。「わたしが去った後、あなた方は大迫害を受けますよ。」

イエスは道德家ではありません。人となられた神です。その証拠として預言しました。

その預言の中には、これからどうなるかを前もって語っているところがあります。

なぜ前もって語っておくかという、**その時が来れば**、「ああ、イエスが語っていた、その言葉の通りになった。」未来を正確に読める人間は誰もいないのに、イエスの言葉はその通りに実現した。

それによって神だと悟るためです。私たちは「神なんかいない」という事でずっと来ましたが、聖書に触れると、「創造主がいる」という事が分かると思います。

今年、ショッキングな事件がありました。東京の文京区、東大がある所。そこに、非常に仲良しの老夫婦がいました。文京区の地主でもあったのですが、家賃アップ一切しない。いい人。地価が上がっても、店子さんに迷惑かけられないからと家賃上げない。紳士的で仲良しで品がいい。非の打ち所のないような素晴らしいご夫婦だったのが、ご主人が認知症になったんです。ある時、奥様が大きな屋敷の土蔵で整理をしていたら、ご主人が几帳面な方で、土蔵の鍵が開いていると言って、外から鍵をかけた。そのまま母屋に戻って…。

半年経って、近所の人が「最近、奥様見ませんね。」そしたら「どこか散歩にでも出かけてるんじゃないかな。」しばらくして、用事があって土蔵に入ったら、白骨化した死体が出て来ました。悪気はない。悪気はないけど、自分のかけがえのない人を忘れる。その人を失った事も、次の瞬間には忘れる。僕は、可哀想と言ったら可哀想だけど、同時に何か不気味なものを感じます。

「創造主なんか無い。」私たちが創造した第一原因者の存在を忘れて、生きているんじゃないですか？それを思い出させるための神からの提言・根拠が聖書なんです。

今日、家の近くの谷町線の駅で、地下鉄に乗るために切符を買っていたら「高原さん」って言うんですよ。「そんな有名になった？」みたいな。全然知らない人。途中まで一緒に来たのですが、YouTube をご覧になって、もうクリスチャンの方です。「それまでは、世界情勢や世の中の事を知りたいと思って勉強して来たけど、ある時、聖書は本物の神の言葉だという事が分かって、第一原因者であり、私を愛している創造主がいると分かった瞬間に、私が探し求めていたのはこの方だと分かった。」神を知った後で、「これが、私が探し求めていたものだ」と後から分かった。

生きていると、何らかの疑問がありますね。人生は何のためか・何のために生きるのか・死んだらどうなるのか・人生の意味って何だろう？作者から離れていては分からない。作者がおられる。それを、どんなに疑り深い人にも確信させるための根拠が聖書預言です。

聖書預言を通して、あなたを呼んでおられる創造主がいる事を是非覚えてください。そして、この方の下に、キリストによって返って来てください。心からお勧めしたいと思います。最後まで、ご清聴ありがとうございました。

今回使用した聖書は新改訳聖書第3版です。

* 動画は YouTube で「[HCA 東住吉キリスト集会](#)」

* ラジオ番組「[聖書と福音](#)」(約14分)も是非どうぞ。YouTube もあります。

* YouTube 「[ごうちゃんねる](#)」(約10分)も是非見てください。

動画筆記 : Rumi